

事前評価個表

整理番号	6
------	---

地域（地区）名	網走西部地域	事業名	森林環境保全整備事業
計画策定主体	北海道	対象市町村	紋別市ほか6町村
事業実施期間	H23 ~ H27（5年間）	事業実施主体	道、市町村、森林組合等

事業の概要・目的	<p>網走西部森林計画区は、北海道の北東部に位置しているオホーツク総合振興局の西半分の地域であり、地域の西部には、南北に連なる北見山地、海側を中心にサロマ湖をはじめとする大小の湖沼群、オホーツク海に流れ込む渚滑川及び湧別川を有する。</p> <p>本計画区の総面積474千haのうち、森林面積は379千ha（森林率約80%）で、うち私有林面積は191千ha（全体の約50%）であり、そのうちトドマツ及びカラマツを主体とした人工林の面積は117千ha（人工林率61%）となっている。また、計画区内の林道延長は730kmで、公道等を含む林内道路密度は10.0m/haとなっており、このほかに林道の支線としての作業道が整備されている。</p> <p>人工林の樹種はトドマツ、カラマツの順に多く、人工林全体の8割を占めているが、両樹種においては、ほぼ同じ面積を有しており、また、4歳級以下ではアカエゾマツの割合が大きくなっている。天然林についても、天然力を生かした更新補助作業等により森林整備が図られてきたところである。</p> <p>人工林について、主要樹種が複数あることや、年齢配置に偏りが見られるため、資源の持続の観点から計画的に更新を図る必要があると考えられる。</p> <p>また、天然林についても、引き続き更新補助作業等の森林整備を進めることによって、森林の持つ多面的機能の向上を図っていく必要があると思われる。</p> <p>そして、日本最大の森林認証エリアを有している本地域において、環境に配慮した森林経営を行うためには、適正な保育・間伐が必要であると考えられる。</p> <p>このため、網走西部地域森林環境保全整備事業計画を作成し、これに基づく森林整備及び路網整備を推進する必要がある。</p> <p>本計画に基づき、森林整備を行うことによって、森林の有する多面的機能の発揮が可能となる。また、これらの整備に関する地元関係者の意欲は高く、コスト縮減を踏まえて実施することとしている。</p>
事業内容・事業費	<p>森林整備：30,741ha 人工造林、樹下植栽等、下刈り、枝打ち、除伐、間伐、森林作業道等</p> <p>総事業費：6,640,625千円</p>
費用対効果分析結果	<p>B/C = 5.21 (総便益(B) = 65,713,401千円、総費用(C) = 12,594,796千円)</p>
評価結果	<p>必要性：保育対象林分の賦存状況、森林整備の緊急性等から見て必要性が高い。</p> <p>効率性：投下する費用を上回る効果が見込まれることから、事業の効率性が認められる。</p> <p>有効性：健全な森林づくり等によって水源かん養、国土保全等の機能の確保に加え、将来の優良材の安定的な生産の上で有効である。</p> <p>本計画では、森林の多面的機能を発揮するために必要な森林整備と路網整備が適切に計画されている。</p> <p>また、効率性、有効性も十分に認められることから、森林環境保全整備事業計画として実施することが適当である。</p>

便 益 集 計 表

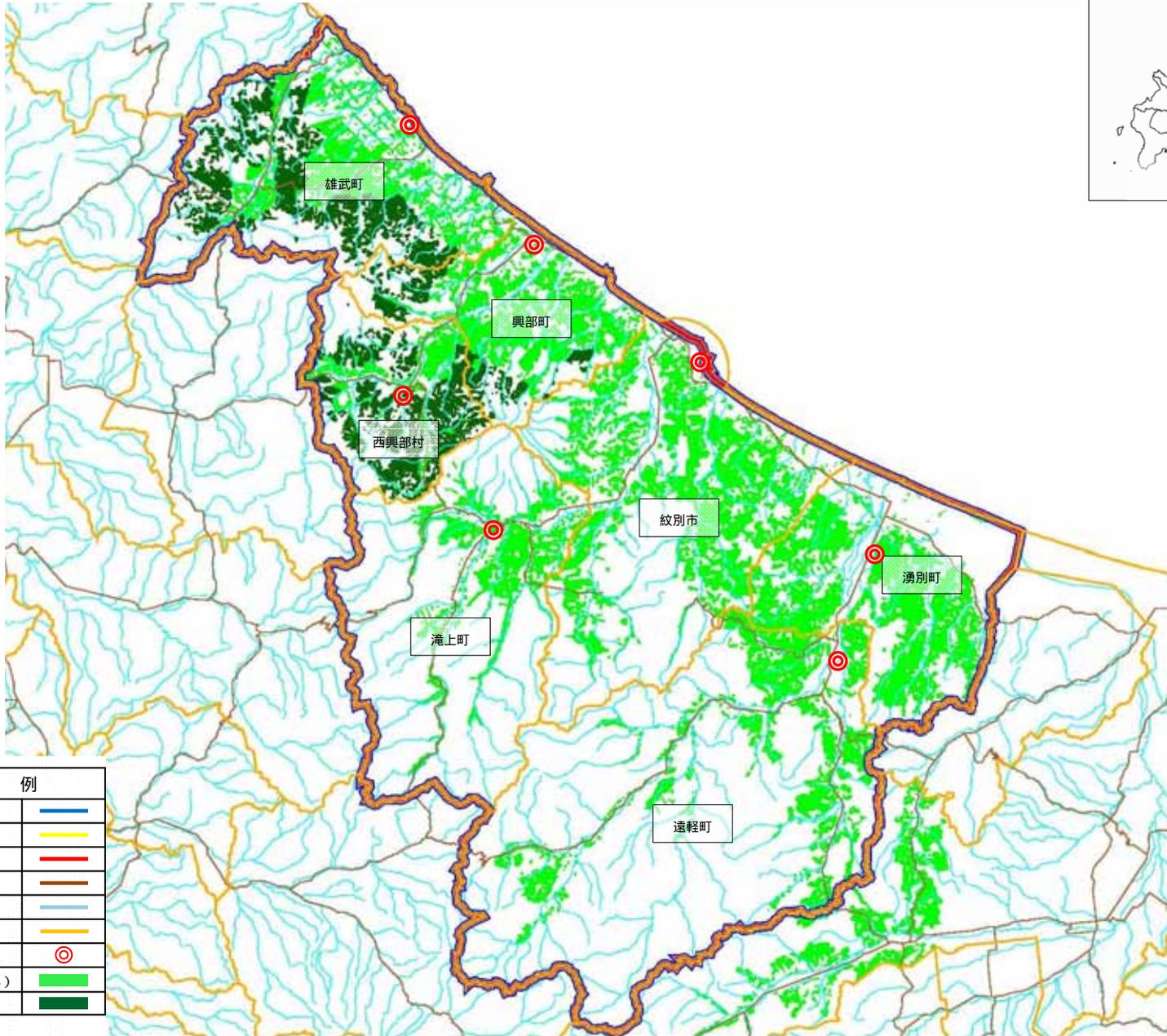
(森林整備事業)

事業名: 森林環境保全整備事業
 地域名: 網走西部

北海道
 (単位: 千円)

大 区 分	中 区 分	評 価 額	備 考
水源かん養便益	洪水防止便益	11,859,380	
	流域貯水便益	4,972,414	
	水質浄化便益	8,488,882	
山地保全便益	土砂流出防止便益	29,132,567	
環境保全便益	炭素固定便益	5,490,156	
木材生産便益	木材生産確保・増進便益	5,770,002	
総 便 益 (B)		65,713,401	
総 費 用 (C)		12,594,796	
費用便益比	$B \div C = \frac{65,713,401}{12,594,796} = 5.21$		

森林環境保全整備事業 網走西部地域（北海道）概要図



凡 例	
計画区界	— (Blue line)
事業区域	— (Yellow line)
森林整備	— (Red line)
国道・主要道	— (Brown line)
河川	— (Light blue line)
市町村界	— (Orange line)
市町村役場所在地	◎ (Red circle)
一般民有林（人工林）	■ (Light green)
道有林（人工林）	■ (Dark green)